

平成25年度 内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
園芸部門

中山間地のパワーを結集！市場の要望に応えられる花き産地に発展

○氏名又は名称 JAみなみ信州花き部会（代表 清水 芳実）

○所在地 長野県飯田市

○出品財 経営（ダリア、ホオズキ他）

○受賞理由

・地域の概要

JAみなみ信州のある飯田・下伊那地区(飯伊地区)は長野県南部に位置する典型的な中山間地域である。標高400mから1500mまでの大きな標高差があり、多種多様な土地条件のもとで、果樹、畜産、野菜、菌茸、花き等多様な品目を生産している。飯伊地区は65歳以上が人口の29.7%を占め、山間部から過疎・高齢化が進行している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

JAみなみ信州は平成9年に周辺6農協が合併して広域農協として発足し、花き部会は平成10年に新設された。現在の会員数は567名である。

部会員の半数以上を70歳以上が占めており、一人当たりの販売額は少ないが（平均販売額95万円）、組織としての販売額は5億円強を達成している。

・受賞者の特色

(1)多様な土地条件を活かした多様な品目の生産

中山間地での多様な土地条件を活かし、各々の土地に合った品目の栽培を指導するとともに、また、正月飾りの竹や梅など、季節毎の需要にも細やかに対応するため多種多様な品目が生産されており、本部会の扱い品目は200以上となっている。また、生産者の高齢化に伴い、鳥獣被害の増加や急傾斜で果樹や野菜の栽培が困難な農地で鳥獣被害に強い花木や日陰に強い草花などの生産を進めることにより、高齢生産者のやりがい、生産意欲を高めるとともに遊休農地の減少につなげている。

(2)共選共販体制の整備による少量多品目産地の形成

平成15年に花きの専門選花場を管内2カ所に設置（平成18年には1カ所に統合）し、花き専門の販売担当の設置と各品目で統一した販売・出荷を行う共選共販体制を整備。これにより小規模生産者による少量生産物の出荷を可能にするとともに、産地全体の品質と供給が安定し、少量多品目の産地として、市場で「草花・花木なら何でもみなみ信州にある」と言われるほど評価を得ている。

(3)高齢者の生産意欲向上と大規模専業農家育成の両面作戦による地域農業の活性化

中山間地という条件不利地域でありながら、地域の条件に合った品目の生産や共選共販体制の整備等により、高齢者中心の小規模な生産者の意欲を高める一方、ダリア等を中心に大規模専業農家を育成する両面作戦により、地域農業の活性化を図っている。ダリア、ホオズキ等は、管内全域で栽培を推進する重点品目に位置づけられ、標高差を利用したリレー長期出荷等により生産・販売を伸ばしており、部会全体の販売額は、発足当時3億円弱であったが現在は5億円強に増加している。

・普及性と今後の発展方向

共選共販体制の確立や生産者相互の技術指導等により、高齢者等の小規模な生産者の意欲を高めるとともに、産地ブランドを確立して構成員の利益に繋げていく本部会の取組は、今後の中山間地農業のあり方に示唆を与えるものである。また、ダリアの周年栽培を中心に若手後継者もみられ、今後も発展が期待される。